

澁谷山報

通巻176号
[令和4年11月発行]



【今後の当山行事予定】

納め不動 12月28日

- 御本尊開扉大護摩供【本堂】
〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時



- 瀧不動堂護摩供
【瀧不動堂】
午前9時頃～午後2時頃まで
(時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)



修正会 1月1日～1月7日

※1日～3日の日中、新年よろこぶ茶のお接待がございます。(詳細は7頁)

●御本尊開扉大護摩供【本堂】

| | 午 前 | | | | | | 午 後 | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 0 時 | 1 時 | 7 時 | 9 時 | 10 時 | 10 時 | 11 時 | 1 時 | 1 時 | 2 時 | 3 時 | 4 時 |
| 1日 | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● |
| 2日・3日 | | | ● | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● |
| 4日～7日 | | | ● | | ● | | ● | | ● | | ● | |



●新春 交通安全祈願【明王殿】(5頁参照)

| | |
|-------|------------------------------|
| 1日 | 午前0時～午前1時30分・午前7時～午後5時 |
| 2日～5日 | 午前7時～午後4時30分 |
| 6日・7日 | 午前9時～午後4時 ※場所が法楽殿(本堂横)となります。 |



明王殿

●新春 瀧不動堂護摩供【瀧不動堂】

1日～3日 午前9時頃～午後2時頃まで(時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

※行事予定は10月20日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

日々のお護摩祈祷

- 迎春期間 … 〈午前〉7時・10時・11時30分
(2月15日まで) 〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日 … 〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
- 仏具磨きの日 … 午前7時
(2月16日以降は平日午後のお護摩祈祷はございません)

交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分(30分毎)
(毎月28日および1月31日～2月4日は交通安全祈願はございません)

仏具磨きの日のお知らせ

- 11月25日 ●12月26日 ●1月25日 ●2月25日
この日は仏具磨きの日ですので、お護摩祈祷は午前7時だけです。



一切衆生に仏性あり

とある事情でわが家に犬が仲間入りすることとなつた。

仔犬ではなく立派な成犬、オスの柴犬である。筆者が犬と暮らした経験は遠い昔のこと、その頃はどの家も番犬と称して庭先などで飼育していた。そのような時代から半世紀以上、犬を始めとする動物たちの状況は著しく変化を遂げ、巨大な一大産業にまで成長し、人間生活にも一層の影響力を持つまでに至つたようになる。

こうして犬と再び親しく接する機会を得て、あれこれと考えることが増えた。

犬から連想してすぐに思い浮かぶのは高野山開創における逸話である。唐の国から戻られた弘法大師は、真言密教の修行に相応しい場所を尋ね求めていた。現在の五條市付近で黑白二頭の大を従えた狩人に出遭う。お大師様の願いに応じた狩人は二頭の大を放ち、霊地高野山までご案内させたという。この狩人と犬こそが高野山の地主神たる狩場明神かりばみょうじんであったというお話。

そうした因縁が続いたのであろうか。昭和の終わり頃までは高野山の至るところで頻繁に黑白の大を見かけ、不思議な思いにさせてくれた。

らもそろりそろりと後退、それに合わせて彼らもにじり寄る。これをしばらく繰り返した。やがて犬たちの威嚇ぶりも少しずつ変わった。彼らの繩張りを侵す者ではないと判断てくれたのか、もう私を追い立てるではなく、橋の途中で立ち止まり、あの咆哮さえも私への餓別のように聞こえてきたではないか。別れ際、私は大きく手を振って彼らのしあわせを念じた。動物の仏性というものを真剣に考える契機となつた経験である。

犬と人間の親和性は太古の時にまで遡るという研究成果もあるように、過去何代にもわたつて互いに交流してきた。お釈迦様が出家直前まで愛した名馬カンタカの例もあるようだ。犬以外の動物が人間と親しい関係性を築いた事例も数多くある。しかし今日、盲導犬や介助犬、災害救助や警察任務、薬物探知などに就く犬たちの活動領域には目を見張り、その活躍ぶりは称賛に値する。仏教は常々仏性の開発、善の推進、真理の具現を語るが、人間においてもなおむつかしいことを周到な訓練と信頼によって、彼ら犬たちは高次元のレベルに到達する。功德を積み続けるこうした善なる側面や人間を無防備にするほどの癒し効果を含めて「犬のちから」と表現する思索家もいる。

近年では高野山麓の九度山慈尊院には名犬「ゴン」がいた。徒歩で参拝する方々を見つけては、高野山大門まで20数キロの道案内を忠実にこなすことでも名をはせた。

片や個人的な体験では犬に肝を冷やしたこともある。およそ七、八頭。橋のほぼ中央で私は彼らと真正面に対峙した。唸りと叫び声はいよいよ高まりを見せ、私に隙あらば一下橋を渡ろうとしていた。ほどなくすると橋の向こうから群れを成した野犬が咆哮をあげて走り迫ってきた。その数

斉に襲い掛かろうとしている。道幅狭く欄干の無い橋上で苦境に立たされた私は、手に執る長き錫杖の先を彼らの鼻先に向け、咆哮に劣らぬ大声で経を唱えた。それは瀧谷山の常用経典でもある『九条錫杖經』であった。この経には猛獸などに遭遇した際、錫杖の音声を聞かしめることで難を逃れ、しかも猛獸たちに菩提心を喚起させる意が説かれている。このことを瞬時に想い、即座に実行したのである。経と錫杖を間断なく誦え鳴らしつつ、体の向きを転換させ、尻を渡るべき橋の行く手に向けた。それからは錫杖を振りながら

カントカ：お釈迦様が出家する以前、釈迦族の王子で

あつた時に愛馬とした白馬。四門出遊をはじめ出家するその夜まで、王子が外出する時は常に供として仕え、別れの際は涙を流したとされる。

修正会

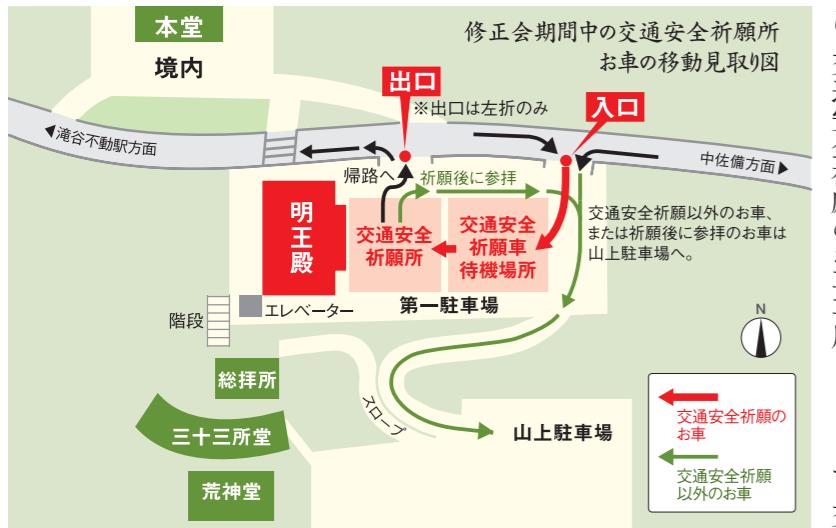
令和5年元日（1月7日）
御本尊開扉大護摩供 厳修

令和5年元日（1月7日）



新春 交通安全祈願

瀧谷山では、お車をよく運転される方や、事業でお使いの方に、その年の安全を祈念するため、年初に交通安全祈願を受けられることをおすすめしております。



瀧谷山では、来たる令和5年元日から1月7日まで修正会をおつとめいたします。修正会では、年頭にあたり世界平和、五穀豊穣、萬民富楽を祈念し、併せてご参詣皆様のお願い事を祈願いたします。

- ご開扉期間……………1月1日～7日
 - お護摩祈祷時刻……………12頁（裏表紙）に記載
 - ご祈祷料……………5000円より
 - 赤札守の授与……………1月1日～3日 各日先着1000名

※本堂は伝統建築のため、冬季
は冷え込みます。お参りの際は、
暖かい服装でお越しください。

令和五年癸卯歲

開運守護



新春 瀧不動堂護摩供



新年護摩のご案内

瀧谷山では修正会期間中、新年護摩と称しまして諸願成就を祈願するお預かり祈祷をおつとめしております。この山報に同封の用紙にご記入いただき、無病息災・家内安全・開運招福等、来たる年の吉祥を願ってお申込みください。

お札は年内にご用意しますので、お申込みは12月20日を締切とさせていただきます。祈祷したお札は修正会終了後の8日以降、寺務所にてお渡しいたします。また、郵送をご希望の方には10日以降に順次お送りいたします。

なお、今年より新年護摩の祈願料を、1体2000円へと約20年振りに改定させていただきます。ご寛恕下さいますよう、お願い申し上げます。

お札は年内にご用意しますので、お申込

元日から1月3日まで、瀧不動堂では山伏たちにより護摩供がつとめられます。瀧不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

● 1月1日～3日

午前9時頃～午後2時頃

(詳細な時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

● 護摩木…1本 300円

(山伏による宝剣加持は休止しております。)



● 祈願料…1体 2000円
(紙札でご用意いたします)

● 締切…12月20日

新年護摩札



聖酒「不動力」ご奉納のお願い

修正会期間中、本堂外陣正面に、皆様にご奉納いただいた聖酒をお供えいたします。古来日本には、往々年の感謝と来る年の祈りを込めて、新年に神様にお酒をお供えし、お下がりのお酒を飲むことでご利益をいただくという習慣がありました。

瀧谷山でお供えする聖酒は、前住職の命名による「不動力」というお酒で、米と米麹のみで醸造された吟醸酒です。ご奉納いただいた不動力は、一本一本お名前を墨書きしてお不動様にお供えいたします。お供えされた方には、お下がりとして不動力一合瓶をお渡しいたします。

家中を守護してくださるお不動さまの護摩札など、縁起物を掛け替え、新しいお札に手を合わせると、新年を実感できるものです。どうぞ期間中に受けください。
また、「昨年より、お正月の密を避ける観点から「幸先詣で」や「さきがけ参り」と称して新春のお参りを年内に済ませる方もおられます。瀧谷山では、年中お護摩祈祷をお勤めしており、新春の縁起物は11月28日より準備しておりますので、ご希望の方は年内にお参りください。

瀧谷山では、新型コロナウイルス対策として中止しております新春の各種お接待を、令和5年より再開いたします。
正月三ヶ日、「新年よろこぶ茶」と称される皆様に、梅こぶ茶のお接待を行っております。場所は境内の西側、時刻は午前9時頃～午後5時頃となります。お気軽にご利用ください。
また同じく正月三ヶ日、当山より「お年賀券」を進呈の方には、客殿にてお屠蘇の接待を予定しております。
今年まで使用を制限しておりました手水社・梵鐘・鰐口は、使用制限はありません。
なお、以前恒例であった開運赤札守につきましては、正月三ヶ日にお護摩祈祷お申し込みの方へ進呈するよう、変更させていただきます。一般への授与はございませんので、ご寛恕下さいますよう、お願い申し上げます。

- 聖酒 不動力
(題字も前住職による)
- 奉納料…1本 3000円
- 受付…寺務所 もしくは
(郵送申込の方には、後日寺務所で受領書と引き換えにお渡しいたします)
- お下がり…不動力一合瓶
(欄に記入)
- 護摩札…三宝荒神札等
- 新年よろこぶ茶お接待…
午前9時頃～午後5時頃 境内
- 年賀接待(屠蘇)…
1月1日～3日 日中 客殿
(お年賀券をお持ちの方が対象となります)
※各種お接待については、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

新春の縁起物 幸先詣でについて

迎春期間中（2月15日まで）、令和5年新春の縁起物を授与しております。熊手・矢守等の縁起物や、竈の神さまである荒神さまのお札。



新春 各種お接待のご案内

元日から1月3日まで、瀧不動堂では山伏たちにより護摩供がつとめられます。瀧不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

● 護摩木…1本 300円

(山伏による宝剣加持は休止しております。)

● 授与期間…11月28日～2月15日

● 主な縁起物…熊手・矢守・えとみくじ・
護摩札・三宝荒神札等

● 新年よろこぶ茶お接待…
午前9時頃～午後5時頃 境内

● 年賀接待(屠蘇)…
1月1日～3日

（お年賀券をお持ちの方が対象となります）
※各種お接待については、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

放生——天子になつた魚たち③

瀧谷不動尊に古くから伝わる「身代わりどじょう」。当山のお瀧の川にどじょうを流してあげると、お不動さまがどじょうの姿となつて、厄や災いを持つてくれると言われ、瀧不動堂前には今でも、お参りの方のためにどじょうが用意されています。

どじょうや生き物を放してあげることを仏教では「放生」と呼び、たいへんご利益のある行為だとされます。『金光明最勝王經』というお経のなかに、放生のご利益を説く美しい物語があります。ここでは、流水長者という人物が、干上がりつつある池から一万匹もの魚を助けるのです。

前回、国王の助けを受け、池に水を運んでたくさんの魚の命を救つた流水長者。しかし流水は、自身の行いが、魚たちにとってほんのひと時の安らぎに過ぎないことも、惟わざるをえませんでした。ですがこの流水の尊い行いが、さらなる不思議なご縁を引き寄せ、流水と魚たちを導くのです。今回はついに最終回。

そういうえば——と流水は過去に静かな山林で、お経を読む一人のお坊さんにお会いした時のことを思い出します。

そのお経の中には「人々の苦しみはどのようにして生じるか」という仕組み」と、「あらゆる生きものが、いままさに命尽きようとしている時に、宝髻如来さまのお名前を聞く機会を得たならば、きっと天に生まれ変わることができます」という一節があつたことに思い至り、この奥深いおしえと、仏さまのみ名を魚たちに説いてあげようと思い立ち、流水は水の中へ入り、魚たちに語りかけました。

「世に尊ばれる方、宝髻如来さまに帰依いたします。宝髻如来さまは、仏となられる以前、修行中に、このように願いを立てられました。

一夜明け、国王は大臣たちに尋ねます。

「昨夜は大きな光が差し、天から花が降っていたが、あのめでたいしるしは、いついたにゆえだつたのだろうか」

「はい。国王さま。なんでも、空から天子たちがやつてきて、流水長者の家に四万もの真珠や宝石を置き、天の花を降らせていったということなのです」

大臣らの返答に驚いた国王は、すぐに流水の家へ行き、城へ呼んでくるように命じます。呼び出しに応じた流水は、国王から昨夜のことについて問われました。

「国王さま。昨日のことは、あの時助けた池の魚たちが、お経にあつた通り、命を終えたのち、天に生まれ変わったのだと思います。そして、私へのお礼にと、あのように美しく、めでたい不思議なことを起こしたのだと——」

流水の返答に、国王は「どうしてそうだと分かるのだ?」と重ねて問います。

「国王さま、よろしければ、使いの者を用意していただき、私の子らとともに、あの池へ行かせてみてはもらえないですか。そうしたら事の真相が分かると思います。池の魚がまだいくらかいるのか、それとも皆同時に、すっかり天に召されたのか」

国王は流水の提案通り、使いの者と、流水の子らをして池へ向かわせます。

池には、昨夜天子たちが降らせた天の花が大人の膝丈ほどまで敷き詰められているばかりで、一万の魚たちはすでに亡くなつた後でした。

ました。『すべての世界のあらゆる生きとし生ける者たちが、いままさに命尽きようとしている時に、私の名を聞けば、亡くなつたあと天に生まれ変わることができますよ』と

流水は、初めに宝髻如来さまのお話をして、それから次に、「苦しみの生じる仕組み」について、池の魚たちに奥深いおしえをのべました。のべ終わると、流水は二人の子らと家へ帰つていきました。

それから月日は流れ、しばらく経つたある日、流水は集会にて、色々の音楽や余興などを楽しみながら、お酒を飲みました。そしてお酒に酔つてしまい、横になつて眠り込んでしまいました。

同じ頃、あの池の魚たちは、一万匹が皆そろつて寿命を全うすると、多くの神々が住まう天界の「三十三天」という所へ、天子として生まれ変わりました。そして、天子となつた魚たちは、天子として不思議な神通力によって、自分たちの前世のあらましと、流水長者の行いとを知ることになります。

天子たちは思いました。

「どうやらこの不思議なる生まれ変わりは、かつて流水さんがぼくらに水と餌を恵んでくださり、『苦しみの生じる仕組み』と、宝髻如来さまのお名前とをお授けくださいたおかげのようだ。よし、みんなでその恩に報い、捧げものをしよう」と、一万の天子となつた魚たちは、恩返しのため流水の家を目指して空を泳いでいます。

一万の天子たちは、流水の家に着くと、眠つている流水の顔の横へ、右脇、左脇、そして足元へそれぞれ一万ずつ、捧げものとして、真珠や宝石を置きました。次に、綺麗な花々を雨のようにならせました。あたり一面、大人の膝丈ほどまで花が敷き詰められました。そしてまばゆい光が辺り一面を包み、美しい音楽や心躍る歌が鳴り出して、世界中の眠りにつく人々をみなすつかり目覚めさせたのです。流水も同じように、眠りから覚めます。

これを確認するや、使いの者と流水の子らは城へ戻り、国王にこのことを伝えました。すると国王は納得し、また、たいそう喜ばれ、いまだかつてないことだと賞賛しました。

このお話にはさらに続きがあります。

この流水という人は、実はお釈迦さまのずっとずっと昔の前世だったのです。そして、この時の流水の父・持水長者は妙幢菩薩さま、そして息子たちである水満・水蔵たちもまた、銀幢・銀光といふ菩薩さまの前世だったのです。

ずっと昔に、流水として生まれた人生において、水と餌を与えて魚を救い、その時「苦しみの生じる仕組み」と、宝髻如来さまの名前を教えてあげたこと、この善い行いのために魚たちは天に生まれることができたのです。そして、この善い行いの因縁をもつて、流水は後に、まさしく「教えを施し、余すことなく、生きとし生ける者を救う」釈迦仏へと生まれ変わったのです——

これまで三回にわたって、『金光明最勝王經』に説かれる流水長者の放生譚を紹介してきました。

このように仏教では、前世や生まれ変わりのことに触れたお話は数多く説かれています。放生や、生き物を助ける行いは、一見必然性がないものと思えるかもしれません。けれども、「この魚やあの鳥も、遠い昔、前世やそのまた前の人生で私の母だった人、私の父だった人の生まれ変わりかもしれない」と思うからこそ、生き物を慈しみ、助けてやるという行いが、積極的に続けられてきたのです。

もしかすると、お瀧場のどじょうたちも、遠い遠い昔、私たちの母だった人や父だった人が、お不動さまとともに現れて、私たちを導いてくれているのかもしれません。

お寺のごはん

10 太ごぼうの煮もの

堀川ごぼうや大浦ごぼうと呼ばれる

太い牛蒡があります。一切れで十分一皿

を満たすことのできる立派な牛蒡です
八百屋さんにお願いしましても昔でい
う石炭箱のような大きな箱単位でない
と取り寄せていただけませんので、なか
なか手に入れがたい牛蒡です。

以前お寺に小さな畠があつたころ、先々代の老僧様はご自分で太い牛蒡を育てられてそれを使つて煮物になさいました。お正月にはこんな太い牛蒡を使ってお煮物をつくります。

次つてお煮物をつくります。



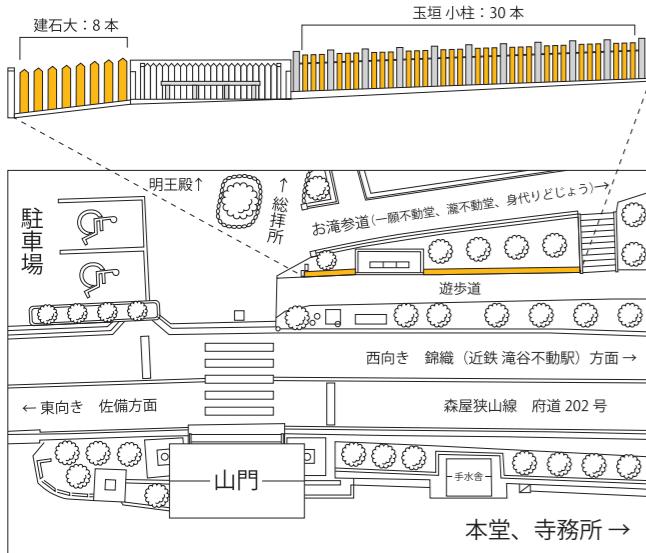
瀧谷山の四季(2)

空は青々と晴れ渡り、朝晩は冷え込むようになつてきました。瀧谷山の界隈で冬に見られる小鳥といえばジョウビタキです。毎年ふしぎなことに10月28日のご縁日になると必ず見かけるようになります。黒い羽に白い大きな斑点の姿は紋付羽織を着たようで、来年もよろしくお願ひしますとでもいうように頭をちょこんと下げる仕草がかわいらしいです。

輪切りにした大根を炊いて赤みそのタレをかけた風呂吹き大根などお精進ならではの冬のごちそうもあります。年越しの準備をしながら深まりゆく秋を感じるこの季節が、瀧谷山の一年で最も静かな、生きることの滋味を感じる季節なのかもしれません。

季節の変化に敏感になることは深く自分と向き合うこともありますね。境内のモミジや柿の葉も色づき始めました。小さな気づきを大切に、どうぞご参詣にお出かけください。

完工予想図 山門側から総拝所に向いたイメージです



※玉垣親柱につきましては予定数に達したため、締め切りといたしました。

玉垣の整備を計画しております。
つきましては次の通り玉垣のお施主様をお募りした
く、お願いを申し上げます。ご希望、詳細につきましては
寺務所までお問合せください。

玉垣ご寄進のお願い

工予想図 山門側から総揮所に向いたイメージです

The diagram illustrates the roof's main ridge (大: 8 本) and decorative columns (玉垣小柱: 30 本). The main ridge is shown as a series of yellow vertical bars, while the decorative columns are represented by grey vertical bars.

□ 場所：イラストの黄色の部分に整備します。

材 料

- 牛蒡 ●お砂糖 ●濃い口醤油 ●青のり ●油

作り方

- 太ごぼうを3センチほどの厚さに切ります。たっぷりの油をお鍋に用意いたします。油が冷たいうちから牛蒡をいっぺんに入れてしまいます。中火くらいで、牛蒡を油で煮るかのように時間をかけてじっくりと揚げます。
 - からりとした油を切ってお昆布のお出汁で煮ます。お砂糖とお醤油でお味をつけて、慌てずゆっくりとお出汁がなくなるまで煮ふくめます。

盛り付け

- 盛り付けは切り口の上面に青のりをつけて平にもり、梅の古木や老松の風情を楽しみます。紅梅の一枝や松葉などどちらかをそえると一段と古木の面もちがますことと思います。